月 報

フルードパワー

No. 199　2016　平成 28. 1. 31

一般社団法人　日本フルードパワー工業会

本　　部：〒105－0011　東京都港区芝公園 3 丁目 5－8 号　機械振興会館内
TEL. 03（3433）5391　　FAX. 03（3434）3354
西日本支部：〒566－8585　大阪府摂津市西一津屋 1-1 ダイキン工業（株）淀川製作所
TEL. 06（6349）0241　　FAX. 06（6349）9865　　油機事業部内

平成２８年の年始の会開催

皆様、新年明けましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願いします。
さて、恒例の平成 28 年の年始の会が 1 月 14 日（木）午後 3 時より東京プリンスホテル 2 階の「マグノリアホール」において開催されました。当日は、梶本会長以下会員各社より 133 名が、また、来賓として経済産業省大臣官房審議官製造産業局担当の若井英二審議官を初め学会の築地会長等多くの先生方に加え関連業界の関係者等 154 名の総計 287 名余の皆様方のご出席のもとフルードパワー業界の新年の門出を祝いました。定刻に事務局から「これより一般社団法人日本フルードパワー工業会の平成 28 年の年始の会を開催いたします」との開会宣言があり、

挨拶する梶本会長

主　要　目　次　　ISSN. 1345－2371

平成 28 年年始の会開催・・・・・・・・・・1
委員会開催・活動状況
　標準化事業／ISO 対策事業・・・・・・・・4
　標準化事業／規格事業・・・・・・・・・・5
技術調査事業・・・・・・・・・・・・・・・・5
工業会ニュース・・・・・・・・・・・・・・6
今後の主要行事・・・・・・・・・・・・・・6
統計資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

（一社）日本フルードパワー工業会
URL　http：//www.jfpa.biz/

続いて梶本会長から以下の挨拶がありました。「新年明けましておめでとうございます。ご紹介いただきました会長の梶本です。新春を迎えまして一言ご挨拶申し上げます。

本日はご多忙の中にも拘りませず、当会の年始の会に、大臣官房審議官の若井英二様を始めとする経済産業省、日本フルードパワーシステム学会、関連団体、そして会員各社等、多くの皆様方にご出席を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年12月に米国のゼロ金利政策が終了し、その影響が新興国にどのように影響するか各国が見守る中、今年は年明け早々、サウジアラビアとイランとの国交断絶のニュースが飛び込むなど中東情勢の一段の緊張や原油安からの資源国経済の低迷、中国の成長鈍化等新興国景気の減速などを背景に、アジアや日米欧株の下落さらには北朝鮮の核問題等波乱含みの門出となりました。このような世界情勢のなかで、新年早々に召集された国会では、３．５兆円規模の補正予算、そしてTPP関連、GDP600兆円を目指す来年度予算等、我が国経済を左右する重要な審議がされると聞いております。安倍内閣は、今年を内外課題に対する挑戦の年、経済最優先の年と位置づけて政策を行っていく方針とのことであり、デフレ脱却を目指すアベノミクス政策の更なる進化とその果実に期待したいと思います。

さて、私たち日本フルードパワー工業会は、今年創立60周年の節目を迎えます。「もはや戦後ではない」と言われた昭和31年に、前身である油圧機器工業会、日本自動機器工業会が設立され、おかげさまで販売高約7千億円にまで発展いたしました。しかし、周囲の環境は大きく変化してきております。世界経済の一層のグローバル化の進展によって、様々な国、地域のリスクなどが世界経済に大きな影響を与える時代となってきました。フルードパワー業界が今後とも成長、発展していくためには、このようなグローバル化した社会・経済の様々な動きに対応していかなければなりません。その意味でも、新技術への挑戦、どこにも負けない生産効率の向上、新規市場開拓などの持続的活動が求められます。そのためには、ここにご臨席の学会の先生方はじめとする産学連携による研究開発等の推進、工場の革新、女性やシニアの方々の働きやすい環境づくりなどが大切であり、当会としても、これらをサポートする活動をしていきたいと考えております。

今年はまた参議院選挙の年でもあります。初めて18歳以上の若者が参政権を得て国政に関与する選挙であり、日本の政治も変化してくる予感がいたします。昨年の北陸新幹線開業に続き、今年3月には北海道新幹線が函館まで開通します。また、2020年の東京オリンピックパラリンピックの開催、2027年のリニア新幹線開業に向けて、東京をはじめ国内各地で様々な工事が始まってきており、日本の都市の姿が変わりつつあります。またあの東日本大震災から早５年が経とうとしています。交通網などのインフラは計画通りに復旧しているようですが、被災された方々が一日も早く安心して暮らせる街になって欲しいと願う次第です。

今年の干支は、丙申（ひのえさる）です。丙は、形が明らかになってくる頃を意味し、申は果実が成熟し固まって行く状態を意味しています。そう考えると、今年は、様々な環境変化の中で、これまでの努力や頑張りが実り、成果があらわれる良き年となることを期待しております。

最後になりますが、我々フルードパワー業界は変化の激しい世界の動きを見つつ、一歩先を見据えて大局的に判断し、競争と協調の精神の下、一層努力していきたいと考えております。日本フルードパワー工業会が、日本のそして世界の発展のためにさらにお役にたてるよう、皆様方の温かいご協力をお願いいたします。最後になりましたが、ここにご臨席いただいておられる方々の一層のご発展ご多幸と会員企業のますますのご隆盛を祈念して私の新年の挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。」

続いてご来賓を代表して経済産業省製造産業局担当の若井英二審議官より、以下のご挨拶を頂きました。

「皆さん明けましておめでとうございます。

只今、ご紹介に与りました経済産業省製造産業局を担当しております審議官の若井です。まずは、日本フルードパワー工業会の年始会にお招きを頂いた事、高い席からで恐縮で御座いますけども、厚く御礼申

し上げます。
さて、日本経済そして世界経済ということで御座いますけれども、まず日本の中の事を考えますと、先程梶本会長からお話がありましたアベノミクスは 4 年目を迎えまして引き続き経済最優先ということで政策を展開してまいります。こういった政策というものを考えますと、アベノミクスがスタートする前、この時期というのは巷では「六重苦」と言われておりていました、為替の問題、法人税の問題、規制の問題等様々な課題が指摘をされてきた訳であります。昨年、年末の税制改正大綱で法人税の問題については 1 年早く前倒しで 20%台を実現し、TPP についても大筋合意を取り付け、環境問題についてもパリ協定が締結をされたということでありますので、このアベノミクスの第一ステージの中において、過去ビジネス環境において大きな課題であると言われたものについては、かなり目鼻が付きつつあるのではないかと考えています。
今日お集まりの経営者の皆様方から致しますと、やはり経済政策がめまぐるしく変わるようでは安心して投資もできない、事業もできないということではないかと感じております。
こういったこれまでのビジネスをしっかりと進めていただける政策を、しっかりと我々がこれからも続けていく覚悟でありますので、是非ご協力を頂ければと思っております。
　先程これも梶本会長からお話がありました世界経済、特に中国経済、資源国経済、相当不安を抱えております。さらに地政学的なリスクも増大している中で、設備投資というのもなかなか難しい部分があります。ただ投資というのは生産能力増強の投資ばかりではありません。
やはり、全体を見通せない時期には少し縮みながら新しい準備をする研究開発投資、人材投資様々なものがあります。是非こういったところにも目配りをしながら経済の好循環を実現していただいて、デフレから脱却し、日本経済をしっかりとさせていくという道筋をつけていきたいと考えておりますので、本日お集まりの皆様方にも是非そういったお心構えで事業を進めていただければなとこのように考えております。先ほどもお話がありましたように世界経済の見通し事態はかなり不透明なところがあります。そういった点でリスクオフの流れはありますけれども、他方そういった中で今申し上げましたように新しい芽を育てていかなければならないと考えているわけであります。

挨拶する若井審議官

特に私が期待しておりますのがこれから人手不足、国内で言いますとどうしても省力化ということを進めなければなりませんし、更に言えば女性、そしてシニアの活躍、一億総活躍ということもしっかりと視野に入れなければならないと考えております。そういったときにはアクチュエータとしての様々なサポートをしていただく、このフルードパワーの業界でお作りになられている製品というものがかなり大きな力を発揮してくるのではないかと思っている次第です。特にこれから、全自動、半自動を問わずロボットというものが色々な現場に入ってくるのではないか。特に、これまでなかなか自動化というものにご縁がなかった中堅中小の製造業、サービス業のこういったところについても導入が進んでくるのではないかと思っております。国内を見渡してみれば、地方では介護やサービス業など人手不足に喘いでいる業界がたくさんあります。こういったところで、しっかりとしたサービスを提供しながら、なおかつ生産性を上げる、そしてそれが賃金の上昇につながって好循環を生む、そのために非常に大きな力になるのがロボットであり様々なアクチュエータであります。このように我々は考えているので、是非そういった視野を持って進めていただければと思っております。このフルードパワー工業会でも、例えば介護分野におけるそういった応用等も視野に、水圧技術についても研究を進められていると聞いております。今後どういう展開になるのかはなかなか見通せないわけですが、変化の激しい時代ですから様々な備えをしていただければと考えております。会長からお話がありましたように、このフルードパワー工業会は今年 60 周年を迎えるという大変おめでたいことでもあります。会長とご一緒の還暦を工業会が迎えたということでありますから、是非この新しい

60 周年という節目を機に、このフルードパワー工業会が益々発展をされる、そして皆様の事業が益々発展をされるということを心から期待をするものであります。
最後になりましたけれども、本日お集まりの皆様方の益々のご発展、そしてこのフルードパワー工業会のご発展、そして日本経済が力強くデフレ脱却の軌道に乗るということを心から祈念を致しまして、私の新年のご挨拶とさせていただきます。本日は誠におめでとうございます。」
その後、懇親会に移り 16：40 頃に和気あいあいのうちに散会しました。

盛況な年始会会場

第 76 回理事会の開催
第 76 回理事会を 13：30 から東京プリンスホテル 11 階の「高砂の間」で開催しました。初めに事務局から本理事会への理事の出席状況について報告を行い本理事会が有効に成立している旨説明しました。梶本会長が会議の開催を宣し、14:30 頃に来賓としてお招きしている経済産業省製造産業局産業機械課の佐脇課長と服部課長補佐がお見えになるためその折にお話を伺う旨の発言があり、審議に入りました。梶本会長は、議事録署名人として代表理事及び監事 2 名を指名するとともに第 75 回理事会以降の会長の業務報告を行い、以下の議事の審議に入りました。
第 1 号議案
平成 27 年度収支予算の見直しの件
平成 27 年度の収支予算のうち収入の「水圧国際標準化事業」の受託収入金額が確定したため収支予算の見直しを行った旨説明しました。梶本会長は本件を議場に諮り、異議なく承認されました。
第 2 号議案
平成 28 年度事業計画及び収支予算（案）の件
平成 28 年度の事業計画及び収支予算（案）は前年度中に理事会の承認を得ることが定款で定められているため、12 月の月報で報告した平成 28 年度事業計画及び収支予算（案）の内容に一部加筆修正したものを説明しました。また、併せて来年度の補助金等の申請状況についても説明しました。梶本会長は本件を議場に諮り、異議なく承認されました。
なお、梶本会長から、これから 3 月までの間に追加事業・予算変更等が生じた場合には、事業計画及び収支予算（案）を修正して 4 月の理事会で再度提案説明し、審議をお願いすることが必要である旨の説明がありました。
第 3 号議案
第 17 回定時総会の開催の件
定時総会の開催に係る事項については、あらかじめ理事会の承認を得ることが必要です。そこで、本年 5 月 19 日（木）開催予定の定時総会に提案する議案について説明しました。梶本会長は本件を議場に諮り異議なく承認されました。
第 4 号議案
その他
業務執行理事である専務理事の業務執行状況の説明と最近の出荷動向・今後のスケジュール等について事務局より説明しました。以上で審議を終え 14：30 に終了しました。その後、15：00 より 2 階の「マグノリアホール」において平成 28 年の年始の会を開催しました。

第 76 回理事会

委員会開催・活動状況報告
（詳細については各担当者にご照会下さい）

～～～～～～～～～～～～～～～～
標準化事業／ISO 対策事業
～～～～～～～～～～～～～～～～

ポンプ・モータ分科会
日　時　1 月 27 日（水）14：00 ～ 16：00
場　所　機械振興会館 B3-9 会議室
出席者　馬場主査以下 9 名
事務局　千葉
議　事
主査より昨年10月に開催されたISO/TC131フランクフルト会議報告があった。分科会に関連するISO/TC131/SC8 の新しい動きとして ISO 4409 にエネルギー効率の測定に関する箇条を追加するために見直しを行なうことになり,新たに WG13 を設置して審議することになった。このほか油空圧部品のパーツライブラリ作成の動き，エネルギー効率の測定方法を検討するために SC9 に WG1 油圧，WG2 空気圧を再組織することになったとの報告があった。
続いて平成 28 年度の活動計画について検討した。
次回開催： 6 月 機械振興会館会議室

～～～～～～～～～～～～～～
標準化事業／規格事業
～～～～～～～～～～～～～～

フィルタ・作動油分科会
日　時　1 月 22 日（金）13：30 ～ 16：30
場　所　機械振興会館 1－5 会議室
出席者　一楽主査以下 7 名
事務局　千葉
議　事
平成 27 年度区分 C で登録している JIS B 8356-1「油圧用フィルタ性能評価方法－第 1 部:フィルタエレメントの性能確認手順」の改正原案について審議した。
次回開催：3 月 11 日(金) 機振会館 1-5 会議室

油空圧シール分科会
日　時　1 月 29 日（金）13：30 ～ 16：30
場　所　機械振興会館 5S-4 会議室
出席者　川口主査以下 11 名
事務局　千葉
議　事
川口主査の議事進行により前回議事録及び配付資料確認を行った。まず、平成 27 年度 B 区分で申請した JIS B 8395 の改正案の JIS 原案作成本委員会を控え，コメントの回答案，解説について検討した。
続いて，新たに改正に取り掛かる JIS B 9386 の改正点の概略説明を行った後,平成 28 年度 B 区分で申請することとした。
次に，工業会規格 JFPS 1017 「シールの用語」の見直し案についての審議を行った。次回，解説の検討を行い終了する。
最後に，ISO 関連として，ISO 3601-1，-3 に対するドイツ改定提案に対する日本の対応をシール各社からのアンケート結果に基づき審議した。
次回開催：3 月 25 日(金)機振会館 6D-4 会議室

～～～～～～～～
技術調査事業
～～～～～～～～

「フルードパワーの世界」のデジタルブック作成委員会（油圧）
日　時　1 月 20 日（水）13：30 ～16：30
場　所　機械振興会館 B3-9 会議室
出席者　伊藤油圧部会長　以下 7 名
事務局　千葉，大橋
議　事
今回は集まった DVD 等動画データを検討し，どこが利用できるかリンクする動画部分を確認した。本文についてはそろっているので各委員がとおして修正が必要かどうか確認することにした。いくつかの項目について，動画の収集を行うことにした。

「フルードパワーの世界」のデジタルブック作成委員会（空気圧）
日　時　1 月 21 日（木）13：30 ～16：30
場　所　機械振興会館 B3-7 会議室
出席者　土井空気圧部会長　以下 5 名
事務局　千葉，大橋
議　事
今回は集まった DVD 等動画データを検討し，どこが利用できるかリンクする動画部分を確認した。本文についてはそろっているので各委員がとおして修正が必要かどうか確認することにした。いくつかの項目について，動画の収集を行うことにした。
また，水圧について，採用する動画を確認した。

技術委員会空気圧部会第519回特許分科会
日　時　1月29日（金）13：00 ～ 17：00
場　所　機械振興会館6－61会議室
出席者　佐藤幹事以下5名
事務局　吉田
議　事
　はじめに前回議事録及び配付資料の確認を行った。公報の検討と無効理由調査について、1 件は審査過程を観察中であり、1 件は調査報告書をもって終了することとした。1 件については二つの証拠資料が提出され、引き続き調査を行うこととした。1 件は特許事務所より特許異議申立書が提出された。1 件については証拠資料が提出され引き続き調査を行うこととした。
　特許庁資料「地理的表示の指定」について情報交換があった。
次回開催：2月26日（金）　名古屋国際センター
第4会議室

ADS国際標準化推進委員会実験実施5大学訪問
1）訪問先
　第1回 1月26日 神奈川大学･鈴木健児助教授
　第2回 1月27日 信州大学・飯尾昭一郎准教授
　第3回 1月28日 横浜国立大学・眞田一志教授
　第4回 1月29日 豊橋技科大学・柳田秀記教授
2）訪問者
　山口　惇　委員長
　宮川新平　幹事
　藤原達也　総括
　千葉　誠　第2技術部長（第1回）
　大橋　彰　第1技術部長（第1・2・4回）
3）訪問概要
　ADS 国際標準化の基礎データを得るための各大学による実験実施内容と装置の確認、進捗と懸案事項の確認・対策、及び来年度以降の予定と進め方について、それぞれ打合せを行った。
　各WG名と実験実施項目は､訪問順に以下の通りである。
・WG-C1「弁周辺のキャビテーションと口径」
・WG-C2「弁周辺のキャビテーションと可視化」
・WG-B, D「ｳｫｰﾀｰﾊﾝﾏｰ, ポンプ・モータ」
・WG-E「シリンダとシール」
訪問結果とコメントは、2月2日開催の第5回委員会にて披露し、今後の進め方の検討材料として資することとした。　なお、WG-A「配管・継手と流速」足利工業大学･桜井康雄教授への訪問は2月16日に実施する予定。

～～～～～～～～～
工業会ニュース
～～～～～～～～～
☆オリオン機械（株）及び新東工業（株）の両社が平成 27 年度優秀省エネ機器表彰制度で日機連会長賞を受賞
　（一社）日本機械工業連合会（以下、「日機連」という。）が主催する「平成27年度優秀省エネルギー機器表彰制度」で当会の正会員である「オリオン機械（株）」及び賛助会員の「新東工業（株）」の両社が、日機連会長賞を受賞されましたのでお知らせします。おめでとうございます。
　なお、表彰式は、平成28年2月4日（木）に経団連会館で行われます。

～～～～～～～～
今後の主要行事予定
～～～～～～～～～～～

＊平成28年
☆2月17日（水）国際及び中小企業合同講演
（場　所）機振会館
☆3月7日（月）技術講演会
（場　所）機振会館
☆3月30日（水）第24回政策委員会
（場　所）当会会議室
☆4月15日（金）第77回理事会
（場　所）ザ・プリンスさくらタワー
（高輪）
2F「コンファレンスフロア」
☆5月19日（木）平成28年度（第17回）定時総会及び60周年記念式典
（場　所）品川プリンスホテル
メインタワー
☆5月19日（木）総会後及び60周年記念懇親会
（場　所）品川プリンスホテル
アネックスタワー5F
プリンスホール
☆5月20日（金）第55回JFPA懇親ゴルフ会
（場　所）未定

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～
1 月に開催された当会各委員会に出席された皆様は以下の通りです。(敬称略)
～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

（標準化事業／ISO対策事業）

油圧ポンプ・モータ分科会
開催日　1月27日（水）
出席者
主　査　馬場賢司（ボッシュ・レックスロス）
委　員　中辻　順（ダイキン）
〃　吉成考正（東京計器）
〃　高橋正和（日立建機）
〃　平出博一（油研工業）
〃　堺　隆二（川崎重工業）
〃　辻井喜勝（タカコ）
〃　山田健治（不二越）
〃　向井信雄（島津製作所）

（標準化事業／規格事業）
フィルタ・作動油分科会
開催日　1月22日（金）
出席者
主　査　一楽義彦（大生工業）
委　員　三好真介（MORESCO）
〃　難波竹己（日本ポール）
〃　冨澤愛喜（ボッシュ・レックスロス）
〃　一ノ瀬健夫（SMC）
〃　杉浦俊浩（コスモ石油ルブリカンツ）
〃　斎藤　巌（東京計器）

油空圧シール分科会
開催日　1月29日（金）
出席者
主　査　川口　葵（阪上製作所）
委　員　小畑博美（JFPA）
〃　南　　暢（日本バルカー工業）
〃　中尾雅司（NOK）
〃　方波見栄次（荒井製作所）
〃　保科俊明（SMC）
〃　太田正貴（阪上製作所）
〃　木挽一彦（三菱電線工業）
〃　相場宣慶（東京計器）
〃　國廣洋一（NOK）
〃　北村　剛（油研工業）

（技術調査事業）
「フルードパワーの世界」のデジタルブック作成委員会（油圧）
開催日　1月20日（水）
出席者
委　員　伊藤和巳（KYB）
〃　古和武典（川崎重工業）
〃　宮　能治（KYB）
〃　安木秀己（油研工業）
〃　渋谷文昭（東京計器）
〃　馬場賢司（ボッシュ・レックスロス）
〃　後藤英智（コンテックス）

「フルードパワーの世界」のデジタルブック作成委員会（空気圧）
開催日　1月21日（木）
出席者
委　員　土井高司（コガネイ）
〃　張　護平（SMC）
〃　小田敏裕（甲南電機）
〃　増尾秀三（CKD）
〃　鳥居良介（阪上製作所）
〃　後藤英智（コンテックス）

技術委員会空気圧部会第519回特許分科会
開催日　1月29日（金）
出席者
幹　事　佐藤　浩（コガネイ）
委　員　井野雅康（SMC）
〃　出澤　大（クロダニューマティクス）
〃　赤松直人（甲南電機）
〃　甲山登紀夫（CKD）

～～～～～～～～
月間行事概要
～～～～～～～～

〈1月〉
5日（火）
・仕事始め
14日（木）
・年始会
・第76回理事会
20日（水）
・技術（委）油圧デジタルブック部会
21日（木）
・技術（委）空気圧デジタルブック部会
22日（金）
・標準化（委）フイルタ・作動油分科会
26日（火）
・技術（委）ADS国際標準　神奈川大学訪問
27日（水）
・ISO（委）ポンプ・モータ分科会
・技術（委）ADS国際標準　信州大学訪問

28 日（木）
・技術（委）ADS 国際標準　横浜国立大学訪問
29 日（金）
・ISO（委）油空圧シール分科会
・技術（委）空気圧部会第 519 回特許分科会
・技術（委）ADS 国際標準　豊橋技術科学大学訪問

☆経済産業省ホームページ
　経済産業省の HP では①政策②申請･届出③統計④政策提言⑤情報公開のリンク等から必要な情報が得られます。
http://www.meti.go.jp/
☆中小企業庁ホームページ
　中小企業庁 HP でも中小企業向け施策に関する多くの情報が得られます。
http://www.chusho.meti.go.jp/

統計資料

油圧機器受注・出荷実績集計表

（速報値）

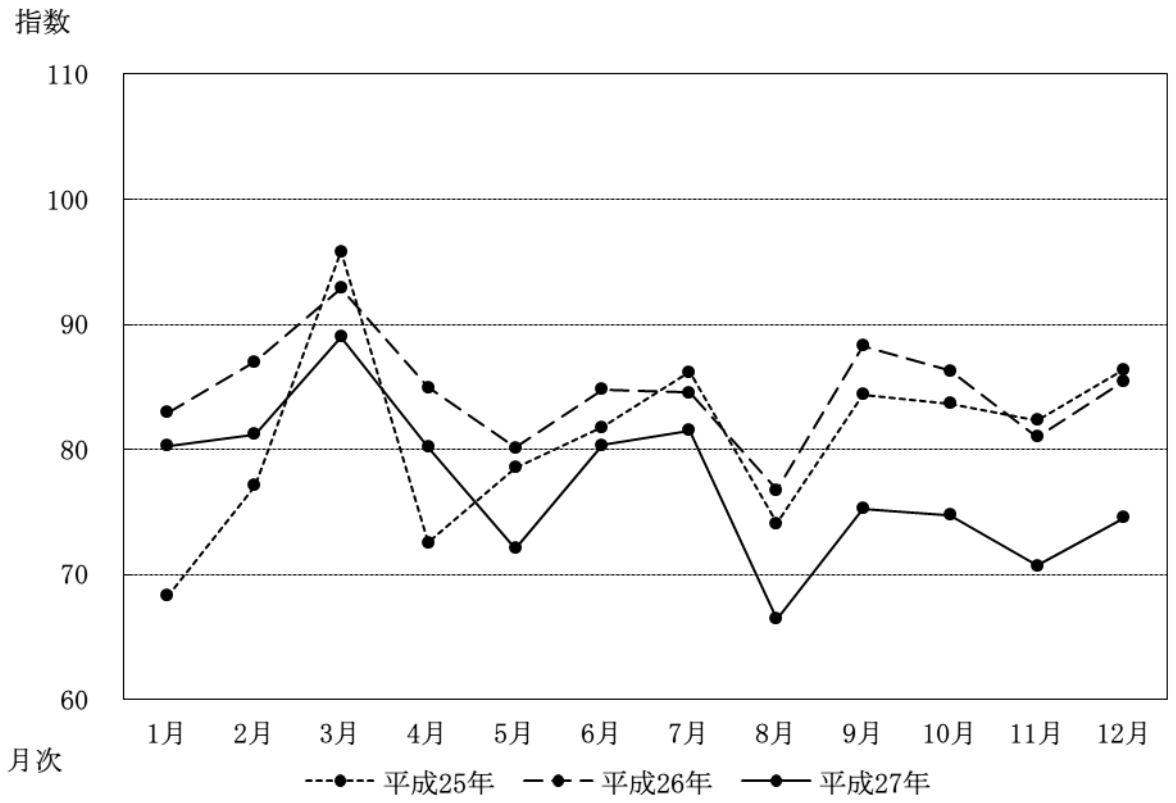
（平成 27 年 12 月）　　（単位：百万円、%）

	受注額				出荷額			
	実績	前月比	前前月比	前年同月比	実績	前月比	前前月比	前年同月比
油圧ポンプ	4,171	97.9	87.4	93.1	4,096	92.0	87.8	88.1
油圧モータ	4,677	92.1	91.3	88.0	4,607	93.6	88.2	86.3
油圧シリンダ	2,622	91.1	83.8	89.2	2,604	91.1	81.3	90.7
油圧バルブ	5,470	89.5	79.9	92.9	5,319	88.2	81.3	81.2
油圧ユニット	2,546	110.0	88.3	104.6	2,514	101.4	98.1	90.6
小計	19,487	94.4	85.6	92.5	19,140	92.3	86.2	86.3
その他機器	2,044	118.4	106.8	103.2	1,720	90.0	89.0	99.8
合計	21,530	96.2	87.3	93.5	20,860	92.1	86.4	87.3

（注）本速報値より確報値の概略を推定する場合、カバー率は約 90%（平成 25 年平均）として算出願います。
（注）本統計資料の元単位は千円となっており、加法数値等合わない部分が御座います。
※大変申し訳御座いませんが、未提出社があるため暫定値となっております

油圧機器出荷高推移

（指数 100＝平成 20 年月平均）



空気圧機器出荷実績集計表

（速報値）

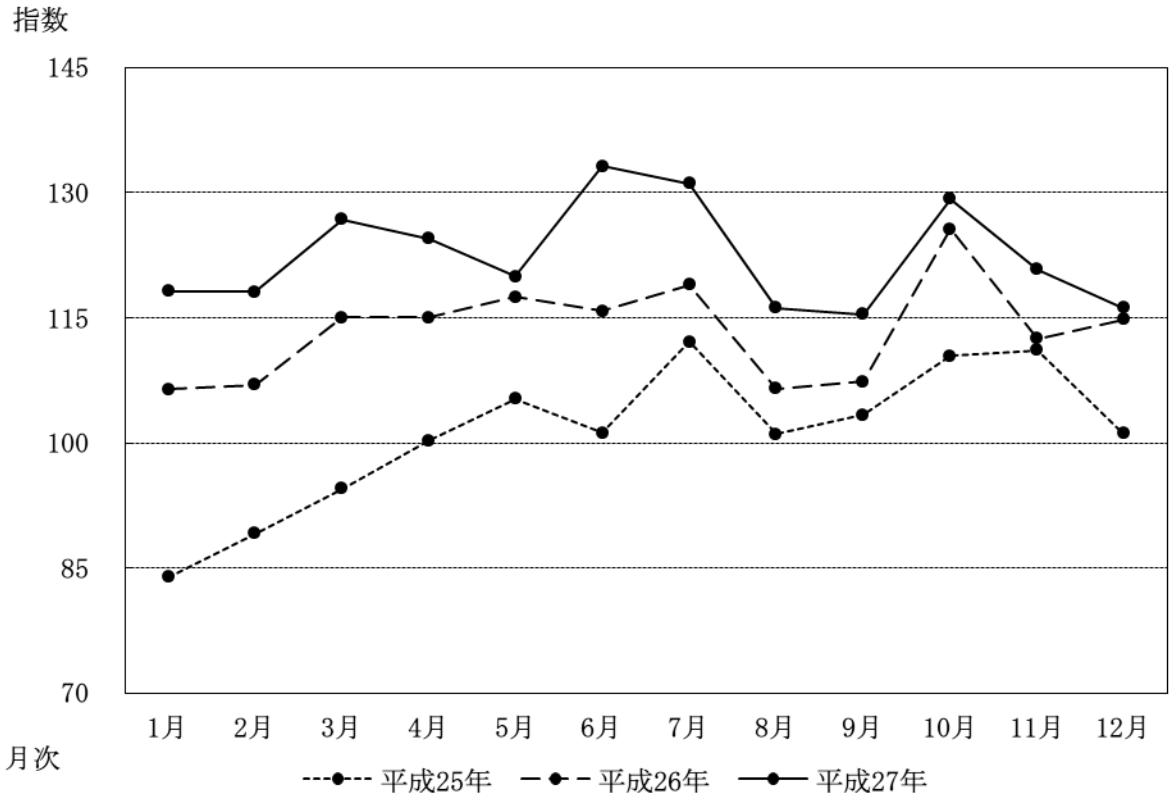
（平成 27 年 12 月）

	出荷額 百万円	構成比 %	前年 同月比
シリンダ	9,461	31.5	97.6
圧力制御弁	773	2.6	84.7
流量制御弁	754	2.5	107.9
方向制御弁	7,913	26.3	98.7
フィルタ	837	2.8	96.5
ルブリケータ	278	0.9	97.5
流体素子	198	0.7	104.8
エアドライヤ	447	1.5	95.7
真空用機器	1,184	3.9	105.2
空気圧機器応用機器	254	0.8	111.9
その他空気圧機器	7,982	26.5	110.1
合計	30,081	100.0	101.2

※大変申し訳御座いませんが、未提出社があるため暫定値となっております

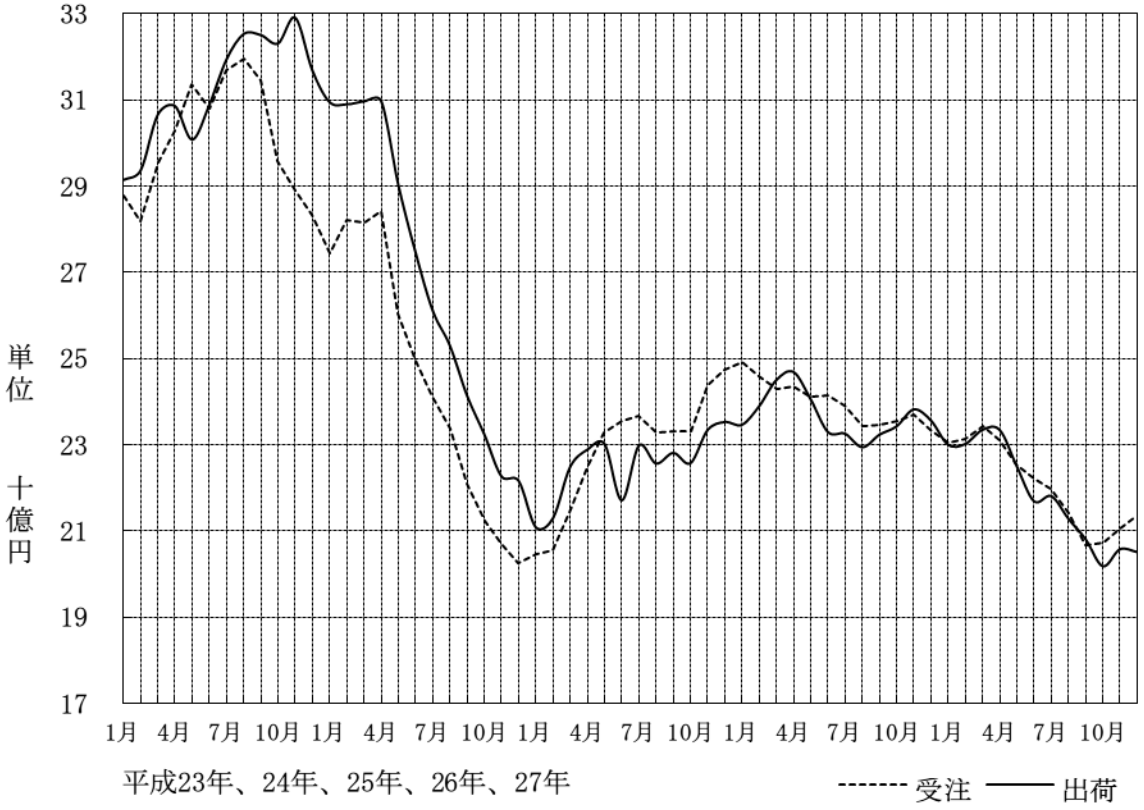
空気圧機器出荷高推移表

（指数 100＝平成 20 年月平均）



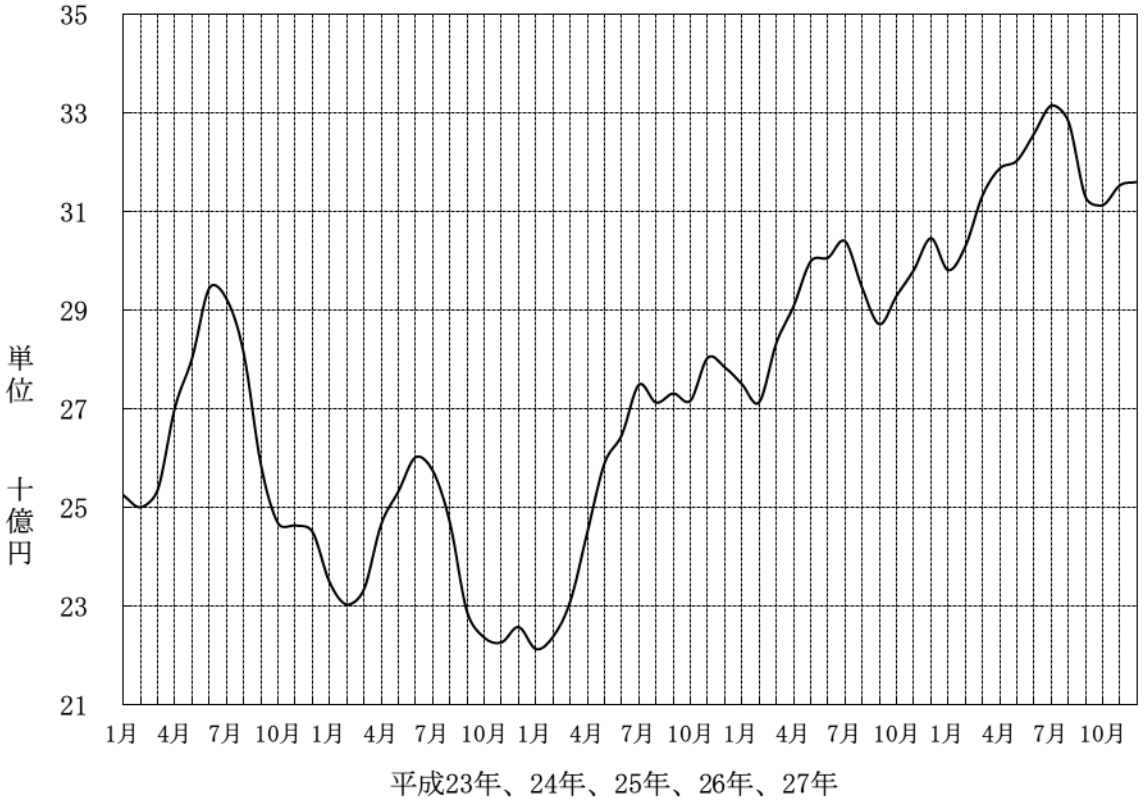
油圧機器出荷高推移表

（速報値 3ヶ月平均）



空気圧機器出荷高推移表

（速報値 3ヶ月平均）



油圧機器受注出荷月別実績推移表

（指数 100=平成 20 年月平均）　　（単位：百万円）

年・月度		受注			出荷		
		実績	指数	前年同月比	実績	指数	前年同月比
平成 25 年	1 月	21,144	73	84.7	19,100	68	65.7
	2 月	20,505	71	65.8	21,574	77	67.1
	3 月	22,895	79	80.7	26,802	96	84.6
	4 月	24,076	83	93.6	20,300	73	69.8
	5 月	22,927	79	95.5	21,977	79	83.6
	6 月	23,614	81	93.9	22,871	82	84.7
	7 月	24,462	84	105.5	24,113	86	96.3
	8 月	21,809	75	100.1	20,728	74	86.8
	9 月	23,686	82	111.2	23,609	84	100.3
	10 月	24,449	84	118.8	23,399	84	104.8
	11 月	25,034	86	124.0	23,033	82	110.0
	12 月	24,769	85	123.7	24,166	86	104.1
合計		279,369		97.5	271,672		86.5
平成 26 年	1 月	24,949	86	118.0	23,208	83	121.5
	2 月	24,026	83	117.2	24,330	87	112.8
	3 月	23,947	82	104.6	25,981	93	96.9
	4 月	25,123	87	104.3	23,765	85	117.1
	5 月	23,268	80	101.5	22,415	80	102.0
	6 月	24,017	83	101.7	23,721	85	103.7
	7 月	24,404	84	99.8	23,645	85	98.1
	8 月	21,892	75	100.4	21,477	77	103.6
	9 月	24,081	83	101.7	24,687	88	104.6
	10 月	24,672	85	100.9	24,136	86	103.2
	11 月	22,370	77	89.4	22,653	81	98.3
	12 月	23,038	79	93.0	23,908	85	98.9
合計		285,788		102.3	283,928	0	104.5
平成 27 年	1 月	23,759	82	95.2	22,454	80	96.7
	2 月	22,621	78	94.2	22,716	81	93.4
	3 月	23,899	82	99.8	24,888	89	95.8
	4 月	22,768	78	90.6	22,436	80	94.4
	5 月	20,975	72	90.1	20,164	72	90.0
	6 月	22,884	79	95.3	22,478	80	94.8
	7 月	22,068	76	90.4	22,798	82	96.4
	8 月	19,293	66	88.1	18,584	66	86.5
	9 月	20,654	71	85.8	21,059	75	85.3
	10 月	22,220	77	90.1	20,914	75	86.6
	11 月	20,285	70	90.7	19,775	71	87.3
	12 月	21,530	74	93.5	20,860	75	87.3
合計		262,958		92.0	259,126		91.3

空気圧機器月別実績推移表

（指数 100=平成 20 年月平均）　　（単位：百万円）

		実　績	指　数	前　年 同月比
平成 25 年	1 月	21,738	84	101.1
	2 月	23,074	89	97.0
	3 月	24,485	95	98.9
	4 月	25,967	100	102.0
	5 月	27,262	105	105.7
	6 月	26,201	101	97.6
	7 月	29,026	112	117.8
	8 月	26,171	101	115.7
	9 月	26,764	103	125.1
	10 月	28,590	110	123.9
	11 月	28,781	111	128.9
	12 月	26,181	101	117.2
合　　計		314,240		110.4
平成 26 年	1 月	27,558	106	126.8
	2 月	27,692	107	120.0
	3 月	29,788	115	121.7
	4 月	29,792	115	114.7
	5 月	30,430	118	111.6
	6 月	29,994	116	114.5
	7 月	30,799	119	106.1
	8 月	27,574	106	105.4
	9 月	27,798	107	103.9
	10 月	32,540	126	113.8
	11 月	29,140	113	101.2
	12 月	29,728	115	113.5
合　　計		352,833		112.3
平成 27 年	1 月	30,596	118	111.0
	2 月	30,595	118	110.5
	3 月	32,826	127	110.2
	4 月	32,238	124	108.2
	5 月	31,064	120	102.1
	6 月	34,476	133	114.9
	7 月	33,946	131	110.2
	8 月	30,079	116	109.1
	9 月	29,808	115	107.2
	10 月	33,466	129	102.8
	11 月	31,286	121	107.4
	12 月	30,081	116	101.2
合　　計		380,534		107.9